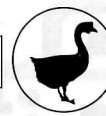




## もりた洋一的一般質問



### 1. 危機管理対策について

(1) 契約等によるトラブルが多発している。そこで、市民がより身近な司法制度として利用できる裁判外紛争手続き制度の事例を積極的に研究し、市民に情報提供してはどうか。

答弁：市民相談室にて、日本司法センターが支援する「法テラス」、法務大臣がADR機関として認定した「かいけつサポート」などを紹介している。事例の収集や広報・ホームページでの啓発も重視する。

(2) 外国人児童・生徒が問題に、言葉の壁がある。日本語ボランティア支援制度を活用してコミュニケーションを充実することにより、いじめや不登校防止に役立ててはどうか。

答弁：国際理解推進事業にて、国際交流協会の支援をお願いしている。外国人子女に対しきめ細かい日本語指導や適応指導がなされ、いじめや不登校は報告されていない。

(3) 首都圏直下型地震など、災害時の避難路について、どのようにその導線を確認するのか。また、緊急車両の乗り入れが困難な小・中学校に対して、避難所など防災拠点としての安全面確保はどのように図られているのか。

答弁：現状地震ハザードマップや防災マップの配布や避難訓練の充実を行なっている。緊急車両の通行路確保も地域防災計画に位置づけている。小中学校の耐震化は平成23年度終了予定、大型車が入れない学校については、支援物資の集積拠点を設けて積替えを実施する体制としている。帰宅困難者については、コンビニとの災害時における支援協定、南流山駅と流山おおたかの森駅での情報提供拠点の検討などで対応の充実をはかる。

### 2. 上下水道事業の垂直統合の可能性について

(1) 民間参入による上下水道事業の垂直統合について、本市での実現性を含め、現状でどのように考えているか。

答弁：民間委託の参入は理論的に可能であっても、T X沿線整備や公共下水道普及率拡充が優先であり、統合はまだ先の課題である。

### 3. マーケティング戦略について

(1) パブリシティ（お金をかけずに媒体に掲載する広報活動）の重要性についてどのように認識しているのか。

答弁：記者クラブや地域ミニコミ誌を通じて実施するとともに、今後はWebサイトや携帯メール活用が重要と考えている。

(2) ロケ地の誘致推進についてどのように考えているのか。

答弁：ロケ地として首都圏から近い利便性を訴求していく。

(3) 観光マーケティングとして、市内名所やイベント情報など外部へ積極的に情報発信していくべきではないか。

答弁：観光資源の魅力を新聞や雑誌など様々な媒体にPRしていく。

(4) 観光に伴う交通網の充実について今後の方向性はどうか。

（例. 流山おおたかの森駅と本町地区のバス路線など）

答弁：交通手段の整備は重要で、既存バス路線の変更についてはバス事業者に県道路線から流山おおたかの森へ乗り入れる新規路線の導入を提案している。おおたかの森駅周辺整備の進捗状況をふまえ協議していく。